



函館支部

北川 勝弘  
Katsuhiko Kitagawa

昨年の10月末をもって開業後47年間の税理士事務所を閉鎖しました。この間TKC会員の血縁的同士としてお仲間に加えていただき、浮気(?)することもなく脇目も振らず、ただTKCシステム一本槍で進めてきました。ですから他システムのことについては良くわかりませんが、自分の中ではTKC会員としての事務所経営を何とか維持でき、閉鎖に際しても事務所承継の最後に至るまでのことを思うときにあらためてTKC会員としての事務所経営を全うできたことの喜びをひしひしと感じています。

この発端は、当時勤務していた税理士事務所の所長から、帯広で飯塚毅という人の講演会があるから一緒に行くぞとの声かけで、列車を帯広まで乗り継ぎ相当の時間をかけて行きました。1970年頃だったと思います。その帰りの車中で“よし、これで行こう”と二人で話し合ったことを今でも鮮明に思い出します。それだけ飯塚毅先生のお話があまりにも強烈で圧倒されたということだったんですね。職業会計人の職域防衛と運命打開という、それまで耳にしたこともない命題に正面から切り込んで、しかもそれが単なる技術的なことではなく、先生の心底から滲み出るむしろ精神的な面での有り様について、根底から考えさせられたからだったんでしょうね。

その後は、紆余曲折はあったものの、「電算機利用による会計事務所の合理化」テキストを何度も読み込み、それまでの手書き経理を決算期毎に電算化すべく切り替えに挑戦し、

最初は、紙テープから始まりましたが、徐々に軌道にのりつつあったので、独立開業の許しをいただきました。

1973年6月33歳での開業でしたが、勿論、TKCシステムでの「北川コンピューター会計事務所」としてのスタートでした。当時はオイルショックの影響で経営も沈静化していましたが、やがて高度成長に伴う経済活性化により、クライアントの業績も右肩上がりでも上昇しました。

TKCシステムで、毎月の巡回監査による月次決算、四半期毎の目標予算と実績対比によるPDCの実施、3ヶ月前の決算予測と納税額のシミュレーションなど、クライアントの経営改善と発展を支援したいとの、飯塚先生伝授による事務所経営を目指しました。

一方、事務所内部でも、週2点改善運動に取り組み、5人ほどの少人数でしたが毎週交代で担当し、年に100のことが改善されるのですと、これまた飯塚先生の担雪埋井(たんせつまいせい)の論に挑戦したり、管理文書なども断片的に採用しました。

1980年6月に秋季大学が函館で開催された折に、飯塚先生が見えられ、何人かの先生方と市内見物し、昼食時に函館駅前のそば屋さんで、「本当においしいそばですね」と舌鼓みを打たれておられた姿を懐かしく思い出しています。

さて、思い出は尽きませんが、冒頭に記したように事務所閉鎖にあたり、あらためて“自利利他”を基本理念として偉大な業績を残された飯塚先生に出会えたことの喜びと、TKC会員として歩むことのできたことへの感謝を覚えるものです。また、事務所承継についても、TKC 同士の会員事務所で引き受けていただき、大変感激し、安堵しているところです。